

Together we can change the world!

CHANGE  
MAKERS

アクションキット

SPEAK UP

-気になることに声をあげよう！-

ACTION KIT

SDGs ALL



資金調達



物資調達



自己行動変革



ボランティア



啓発活動



政策提言

FREE THE  
CHILDREN

# 「変だな」と感じること + 声をあげる = 未来に変化を起こす

キング牧師は、差別で分断されている社会から、人々が共に生きる社会へと変わるよう“I HAVE A DREAM”という言葉に、希望を託しました。私たち人間は、言葉を使って想いを分かち合い、社会全体を変えることができます。

希望を描き、変化を起こすことは年齢に関係なく、誰もがおこなってよいことです。声をあげることで私たちが望む未来を描いていきましょう！

## 自分たちの声が社会を変えられるという自信が必要

社会はおとなだけでつくられているわけではありません。年齢に関係なく、一人ひとりが社会を構成する大切な仲間です。社会のあり方や未来について子どもの声も、しっかりと聴かれるべきです。

しかし、現在の日本では、若者の政治参加に対する意識は高いとは言えません。それは、子どもの時から、自分たちの声が、地域や社会を変えていけるという体験をしていないからかもしれません。



日本を含む7か国の若者13歳から29歳に対する意識調査の結果、  
「担い手として積極的に政策決定に関与したい」と答えた割合は…

日本…35.4%    スウェーデン…46.0%    イギリス…53.2%    韓国…53.9%  
フランス…54.3%    アメリカ…60.4%    ドイツ…62.9%

\*平成25年度 我が国と諸外国の若者の意識に関する調査(内閣府)

このキットは、アクションを起こすための基本的な4つのステップを踏みながら行動を起こせるようになっています。仲間と一緒にアクションを起こせる内容ですが、1人でももちろん大丈夫！私たちがフリー・ザ・チルドレンも、1人の少年のアクションから始まりました。

## フリー・ザ・チルドレン・ジャパンとは

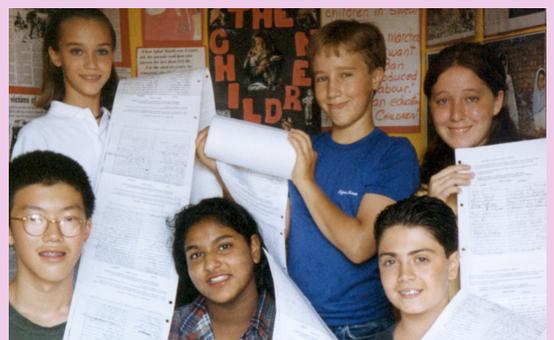
1995年、ひとりの12歳の少年クレイグから始まったフリー・ザ・チルドレン。「子どもになんか何もできないよ」「おとなになってからやれば」と、活動を始めた当初クレイグは周りからそう言われました。

でも、「子どもだって変化を起こせる。子どもだからこそできることがある。」と信じて活動を続けたところ、だんだん仲間が増え、これまでに45か国以上で390万人の子どもや若者が活動に参加し、その結果、開発途上国に1,500校以上の学校を建設しました。

フリー・ザ・チルドレン・ジャパンは、この理念に共感し、1999年に活動を開始しました。

「子どもや若者は助けられるだけの存在ではなく、自身が変化を起こす担い手である」という理念のもと、子どもや若者が自分の持つ力を発揮して、より良い世界をめざし行動を起こせるよう環境づくりに取り組み続けています。

写真：クレイグ（上段中央）と一緒に活動を始めたクラスメイト



# もくじ



## ステップ1 問題やアクションに必要なことを調べよう！

- 03 ストーリーで知る「変化を起こした子どものアクション」
- 04 声のあげ方を知ろう
- 05 声をあげることは関係をつくるということ
- 06 取り組む社会問題について学ぶ
- 07 働きかける相手（学校 / メディア / 議員や首長）について
- 08 議員に働きかける際に抑えるべき10のステップ



## ステップ2 目標を決めてアクションの計画を立てよう！

- 10 ゴールを決めよう / 必要なことを整理しよう
- 11 役割分担をしよう / 危機管理を考えよう
- 12 スケジュールを確認しよう



## ステップ3 TAKE ACTION! アクションを起こそう！

- 13 活動をやりきるアドバイス / 活動する時に守ってほしいこと
- 14 活動中の記録を取ろう



## ステップ4 アクションを振り返り、報告・お祝いをしよう！

- 15 アクションを振り返り、報告・お祝いをしよう！



## ワークシート

- 17 ワークシート3種類



## ステップ1 問題やアクションに必要なことを調べよう！

### ◆ストーリーで知る「変化を起した子どものアクション」

小学6年生の坂口くり果さんが世田谷区長に提案したことで、2019年4月から東京都世田谷区で配布する母子健康手帳には、子どもの権利条約のことが目立つページに掲載されることになったよ。

私は小学5年の時、フリー・ザ・チルドレン・ジャパン（FTCJ）が開催するテイク・アクション・キャンプに参加し、子どもの権利条約のことを知りました。子どもの権利条約とは、1989年に国連でつくられたもので「生きる権利」「育つ権利」「守られる権利」「参加する権利」の4つの柱からなっています。私はこの条約を知った時、私たち子どもの権利が、この条約で守られていることを知り、とても心強くなりました。しかしその反面、このような条約が必要なくらい辛い思いをしている子どもがたくさんいることも知り、胸が痛くなりました。最近、いじめの発生件数が過去最多になったという統計がニュースで流れました。また、親から虐待を受けて亡くなってしまった子のニュースも、珍しくありません。

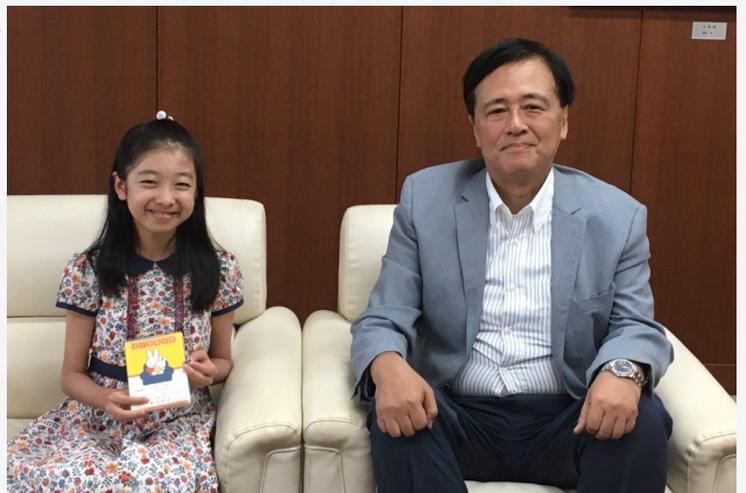
私はこの問題をどうにかしなければならぬと思い、できることはないか考えました。これは海外の問題ではなく、日本の抱える大きな問題です。しかし、子どもの権利条約を知っている人はまだまだ少なく、これらの問題もテレビの画面の向こうのごとく、他人事と考えている人が多いように思います。

そこで思いついたのは、母子手帳に子どもの権利条約を載せるということです。なぜ母子手帳なのかというと、母子手帳はお腹に子どもができた時、必ずもらって見るものだからです。チラシなどのように、捨てられたりするようなものではありません。母子手帳でこの条約を知ったら、誰も子どもに暴力をふるおうなんて思わないのではないかと思います。

よく見ると、お母さんが持っていた世田谷区発行の母子手帳には、最後のページに小さな文字で「子どもの権利条約」が載っていました。しかし、さらに調べてみると、2011年度からは載せていないことが分かりました。そこで、小学6年生の夏休み、FTCJのスタッフの方と区議会議員の方の協力を得て、世田谷区の保坂区長に「母子手帳に子どもの権利条約を掲載してほしい」と直接お願いに行きました。その後、区議会で取り上げられ、無事可決され、2019年度から世田谷区の母子手帳に子どもの権利条約が掲載されています！さらに、新しくなった母子手帳では、最後の1ページを「子どもの権利条約」だけに使い、イラストと分かりやすい文章で紹介しています！

私はこれまで何かアクションを起したいと思っても、なかなか勇気がなく、どうすればよいかわからない、などと自分に言い訳をしてきました。こうして初めてアクションを起して実現したことで、私は自分に少し自信がもてるようになりました。「私にもできることはたくさんあるのだ」と。また、多くの新聞やメディアに取り上げていただいたことで、他の区や県でもこの活動が広まりつつあり、今「私」の活動は「私たち」の活動になってきています。メディアの影響力の大きさはすごいなど、改めて思っています。

私はこれからもこの活動を東京、関東、日本全国、そして海外へと規模を広げていき、いつか母子手帳に子どもの権利条約が載っているのが当たり前になり、そして、大人も子どもも皆、子どもの権利条約を知っているのが当たり前になって、辛い思いをする子どもがいなくなるよう頑張っていきたいです。



－2019年11月 坂口くり果

(写真) 左：坂口くり果さん 右：保坂世田谷区区長（2018年8月撮影）

## ◆声のあげ方を知ろう

“

思っているだけでは伝えることは難しい。  
だからこそ、自分が望む未来を声にして伝えることで、  
初めて、周りの人々に理解をしてもらえます。

”

**社会を変えるには「伝える」ことが必要！**

人は集まり、社会をつくる。社会を変えていくためには、そこに住む人々の考え方や価値観、行動を変えることが必要だよ。自分の抱えている問題意識をほかの人に伝えるうえで必要になることが「声をあげる」こと！

**伝え方もいろいろ！**

社会を変えたいとき、社会にいる人に直接話をして、その人の考え方や行動を変える方法があるよ。ただ、この方法はその対象となる範囲が地域や国と広がったときに難しくなるよ。そうした時に、民主主義の制度を活用し、状況を変える力がある人に対して働きかけていくことが有効だよ。

**変える力を持っているのは誰？**

社会を変えたいと願うとき、その状況を変える力を誰が持っているのか、つまり権力者が誰なのかを見極める必要があるよ。私たち一人ひとりが権力者である場合もあれば、そうでない場合もある。取り組みたい社会問題について、その解決のために力があるのは誰なのかをしっかりと把握しよう！



コラム

**声をあげることは「子どもの権利」**

声をあげようとするとき、「何か主張するなんて恥ずかしい」など、周りの目が気になり発言ができないという場合があるかもしれません。また、人によっては、主張をしている人を「わがまま」「我が強い」という人もいるでしょう。

そんな時は「子どもの権利条約」の第12条“すべての子どもは、自分に関係のあることについて自由に自分の意見を表す権利がある”を思い出してください。子どもが意見を表す権利は条約でも保障されています。また、子どもだけでなく年齢や人種、立場に関係なく、誰でも自分が生きている社会と自分の未来について、声を上げることができ、その声は聴かれるべきです。もし、人前で話すことが苦手なら、作文や映像、音楽、ダンスなど自分の好きな方法で表現して伝えることができます。

## ◆声をあげることは関係をつくるということ



「トランプ大統領をなんとかしないとイケない。  
そう、だからトランプ大統領に声をあげて、彼を教育しないとイケないの」  
(アメリカで抗議活動をする若者)

## 相手と関係をつくっていくことが大切

声をあげるという行動について敵対的なイメージを持つ人もいるかもしれないね。でも、声をあげることは、相手を攻撃するのではなく、大事なことは相手との関係づくり。働きかけをする対象の人から共感や賛同をどのようにして得るのかを考えながら声をあげていこう。

## 権力者に対する影響力を認識しよう！

多くの場合、私たち自身が権力者であるということとは少なく、自分の声が聞いてもらえるのかと不安になるかもしれないね。私たち一人ひとりが直接的に社会を変えることが難しくても、その力を持っている相手(権力者)に対して影響力を高めて、行動を促すことができる。そして、声をあげるとき、私たち一人ひとりがその力を持っている人にどのような影響力をもっているのかを把握することが必要だよ。例えば、自分の地域の議員や首長(区長や県知事など地方自治団体の長)は、その人たちが投票によってあなたの地域から選出されてその役職についているということを理解すると良いよ。学校に働きかける場合、学校は生徒のための場所であり、生徒の声が聞かれるべきという意識をしてみよう。自信をもってアクションをおこそう。



「市町村区の首長や議会の議員にとっては、その選挙区に住む人が2-3名で面会を申し込んだら、それを断ることは難しいでしょう。選挙権を持っていない子どもでも、議員にとっては子どもの周りにいる家族の存在を意識します。この子どもと話をすることで、家族からも次の選挙で票を得られると考えるでしょう。」

(東京都元区議会議員)

気持ちの面で相手は私の声を聴くべき存在であるという意識を育むこと、そして、自分の持っている影響力を理解することは、実際に権力者と向き合うときに、堂々と相手と話をするためにも大きな助けになるよ。



354

CHANGE Takes Time -善きことは、カタツムリの速度で動く-

インド独立の父マハトマ・ガンジーは「善きことは、カタツムリの速度で動く」という言葉を残しています。社会の制度や仕組みを変えるには時間がかかるでしょう。場合によっては、みなさんが現在通っている学校を卒業するまでに達成できない場合もあります。だからこそ、ためまなく働きかける「問題意識」や「意思」が必要となります。「なぜ私はこの社会問題や変えたい未来を重要だと思っているのか」ということを、明確にしておくことが大切です。

同時に、「変えたい」という思いが強ければ強いほど、変わらない相手や協力をしてくれない周囲に攻撃的になってしまうこともあります。情報を知れば知るほど、知らない人々との間に意識の差も生まれてしまいます。多くの場合、人が変わるには時間とプロセス(過程)が必要です。自分の意識を大切にしながら、継続して働きかけが行えるように「セルフケア」(自分の気持ちをケア、自分を大事にすること)も心がけてください。

## ◆取り組む社会問題（気になること）について学ぼう

声をあげるとき、取り組みたい社会問題やその社会問題をめぐり関係者を理解することが重要だよ。以下の投げかけについて考えたり調べたりして、書けるところまで記入してみよう！

**あなたが取り組みたい社会問題（気になること）は、なんだろう？**

例) 疑問に感じる校則、犬や猫の殺処分、食品ロスなど

**なぜその社会問題に取り組みたいのだろう？何がどのように変わってほしいのだろう？**

「変わってほしいこと」を具体的に伝えられるかは、大きなポイントです。友人や家族に見てもらい、思った通りに伝わったか確認しよう！

**なぜその問題が生まれているのだろう？**

**問題を解決する力がある人は誰だろう？その人が現在行っている取り組みは何だろう？**

問題を解決する力がある人は、“働きかける相手”となるけれど、直接その人に働きかけるのが難しい場合、その人に働きかけてもらうように他の人に促すという方法も考えられるね。



## ワンポイント 包囲網をつくる

学校や地域、国に対して働きかけをするときに、私たちが持つ影響力を高めることは重要です。例えば、学校に対して働きかける場合は、生徒の賛同に加えて、保護者の賛同もあれば、大きな助けになるでしょう。そのために、まず一緒に活動をしてくれる仲間を増やしてグループで活動をするという方法もあります。一人で声をあげるよりも、より多くの人に参加しているということは、相手にそれだけ重要度が高いという印象を与えられます。また、影響力を高めるために、地域の報道機関(新聞やラジオ、テレビ)などに働きかけて、取材してもらおうというのもよい方法です。

## ◆学校に働きかけるとき

### 学校的意思決定の仕組みを知ろう

学校で制度や仕組みを変えたいときは、校則や生徒会などの仕組みを知ることが必要だよ。

また、協力的な教職員を見つけ、相談をするのも良いね。変えるための手順や、そのうえで働きかけるべき相手などを明確にしよう！

## ◆メディアに働きかけるとき

### 投書を活用しよう

新聞やテレビは多くの人に影響を与えることができる手段！また、首長・議員などの政策決定者の多くは、新聞やテレビなどのメディアから世論を読み取るよ。新聞やテレビに意見を投書することは、取り組みたい社会問題に対する社会全体の意識を高めることができ、効果的。多くの新聞では「投書欄」という読者が投稿できるスペースが用意されているので、投書の仕組みを活用して働きかけてみよう！

### プレスリリースを活用しよう

学校や首長に働きかけるとき、相手側の合意も得られた場合に、情報を地方新聞などに伝え、その様子取材してもらおうという方法もあるよ。メディアの目も入ることから、働きかける相手の行動を促すことが出来る！報道機関のウェブサイトからFAX番号を調べ、取材のお願い(プレスリリース)を送ろう！

※名前や写真が報道される可能性があるため、事前に自分たちの情報をどこまで掲載可能か、家族や学校と確認をするようにしよう。

## ◆議員や首長に働きかけるとき

議員や首長に働きかけるときには、その人のウェブサイトなどを調べ、取り組みたい社会問題に対する相手の考え方や現在行っていることを調べよう。最も効果的な手段は、面会（直接会って働きかけること）。面会ができない場合は、手紙、FAX、メールといった手段もあるよ。

特に地方議会に働きかけをする場合、取り組みたい社会問題について話し合う委員会に所属している議員に働きかける必要があるので、議会のウェブサイト調べてみよう！

※議員に働きかけるとき、特定の政党や議員を支持していることを表明することを意図していない場合は、異なる政党に所属する複数の議員に働きかけ、特定の議員や政党を支持しているわけではないという姿勢を示すと良いよ。

※面会は、1度の訪問だけでなく何度か訪問して訴えたい問題が解決されるよう、根気強く意見を伝えていく必要がある場合もあるよ。

## 議員に働きかけるときの基本の10ステップ

### -準備をする-

#### 1. 社会問題（気になっていて変えたいこと）を理解する

まずは、解決したい社会問題自体を深く理解するために、調べよう。

#### 2. 政治状況とその社会問題に関する課題を理解する

現状を理解すると、働きかけるタイミングや相手を決めやすくなるよ。

#### 3. 働きかける相手を決める

働きかける相手を決め、その相手の取り組みなどについて調べよう。

#### 4. 要望をまとめる

A4用紙1枚程度で、どういった変化を求めているのか、その理由などをまとめた“要望書”を用意しよう。

#### 5. 要望を仕上げる

働きかける相手の取り組み等に合わせ、より効果的な文章に要望書に書きかえよう。

#### 6. 面会の日を設定する

働きかける相手や窓口となる人に連絡を取り、面会の約束をしよう。場合によっては、責任者としておとなの存在を求められることもあるよ。相談できる人を見つけておくと、心強い！

#### 7. 面会時の話の流れを事前に考える

- ・その社会問題や変化が、どれだけ自分や社会にとって大切なのかを話そう。
- ・働きかける相手の立場に合わせて、話のポイントを伝えよう。
- ・相手が何か約束をした場合、あなたがその相手の行動に注目していることを伝えよう。

#### 8. 予測できない事態に備えて、危機管理を考える

- ・面会が時間通りに始まらない場合やキャンセルされる可能性を考えよう。
- ・交渉相手はそのトピックについて深く理解していない可能性を考えよう。
- ・要望書に対して、コメントされる可能性を考え、ポイントごとに対応策を考えよう。
- ・要望書のコピーを参加するメンバーは全員持ち、事前に役割分担をしておこう。



### 354

### 働きかけることは相手を知ること

働きかけをする際に、話をする相手を過小評価しないことが重要です。その分野で既に私たちよりも長い間活動をしている場合も多くあります。可能な範囲で相手の情報を調べておこう。場合によっては、社会問題に関係のない趣味なども調べ、関係づくりのための会話のきっかけを探ることも重要です。

## -面会当日-

### 9. 面会

- ・遅刻をしないように、余裕を持って向かおう。
- ・面会は笑顔で始めよう。
- ・敵対するのではなく、関係を構築するために面会をするということを忘れないようにしよう。
- ・相手が議員などの政治家の場合は、様々な情報を知っていて圧倒される場合があるかもしれないね。ただ、面会は私たちが勉強する場ではなく、相手の「問題解決に向けた行動の意志」を尋ねる場であることを忘れないようにしよう。
- ・面会記録として、一緒に写真を撮影しよう。  
(この時、面会相手にどこまで公開してよいのか確認すると良いよ。)

## -フォローアップを行う-

### 10. フォローアップを行う

- ・面会後に感謝の連絡をしよう。(手紙、メール、FAXなど)
- ・面会中に依頼され、約束したことがあれば、すぐに対応しよう。
- ・面会の結果、相手が行動を起こした際には、連絡をしてもらうようにしよう。
- ・要望に対する行動がされているか、確認をするようにしよう。
- ・要望に対する行動が時間がたつてとられてない場合、状況を知るために再度面会の連絡をとるなどアプローチをしていこう。



#### ワンポイント

#### 議員秘書と関係を育む

アプローチする相手が国会議員の場合、議員本人との関係づくりだけでなく、議員を補佐する秘書との関係づくりも重要です。日々、多くの働きかけが議員事務所には届きます。そうした様々な要望を議員の手元まで届けるのが秘書です。電話などで連絡をした際にも、秘書が連絡窓口になることが一般的です。

※市町村区議会議員の場合は、秘書を介さずに直接連絡が取れることが多くあります。



#### ワンポイント

#### 働きかける場所

国会議員は多くの場合、東京の議員会館と地元の選挙区に事務所を持っています。国会会期中の平日は東京にある議員会館にすることが多いようですが、週末は選挙区のある地元に戻っている場合が一般的です。住んでいる地域に合わせて、働きかけを行う場所についても検討しよう。

**ステップ2 目標を決めてアクションの計画を立てよう**

訴えかけたいことと働きかける相手をさらに明確化して、アクションのゴールを決めよう！

**アクションのゴール**

私が訴えたいことは...

なぜならば...

働きかける相手は...

その人に働きかける際に注意すべきことは...

**◆必要なことを整理しよう**

アクションを起こす上で、味方になってくれる人/助けになってくれる組織は誰だろう？  
 友達、先生、家族、地域の政治家、NPO団体、企業など、考えられる人や組織を書き出そう。  
 その他、するべきことはなんだろう？必要な資材などは何があるだろう？

こと	もの	ひと

**◆役割分担をしよう（グループで活動する場合）**

行うことに対して担当する人（責任を持つ人）を決めておくと、円滑に活動ができるよ。

考えられる役割を書き出して担当者を決めよう。例えば、社会問題に対し今対策として行われていることを調べる、議員事務所に連絡を取る、当日の進行、当日の記録、当日の写真撮影など、他にも様々な役割があるよ。

役割	担当する人

**◆危機管理を考えよう**

アクションを進めていくと、壁に直面することもある。事前に対処策を考えておくと、実際に何か起こった場合もスムーズに解決することができるよ。

例えば、働きかけた相手から何も反応がなかったら、どうする？アクションの期間を延長する？他の方法で声を届ける？どんな方法で？「これだ！」という対応策を決めておこう。

考えられる困難	対応策

**◆スケジュールを確認しよう**

ゴール達成に向けて、いつ何を行うのか、計画を立てよう。大切な日付（アクションプランニングをしている今日、目標達成日、学校の行事などに合わせる場合すでに決まっている日程など）を先に書き、達成させるために必要な行動を書き埋めていこう。

日付	やること
例) 7月20日	例) 仲間を集めるために、自分の主張をまとめる



## ステップ3 TAKE ACTION! アクションを起こそう!

遂にアクションをおこすとき!

活動中の写真や現状を発信しよう。

SNSで発信する時は、ハッシュタグも忘れずに。

アクションが上手くいかず、モチベーションが下がってしまった時には、調べ学習で感じたことや、目標を立てた時の想いに立ち戻ろう。

### ～活動をやりにきるアドバイス～

- ・楽しさを取り入れよう。  
例：ミーティングの最初にアイスブレイクゲームをしてみよう。
- ・活動の成果に途中途中で目を向けて、成果を実感していこう。
- ・お互いに頑張っていること、よかったことを言葉にして伝えよう。
- ・無理なく実施ができていないか、時と場合に応じて計画は見直そう。

&楽しむことを忘れずに!



共通ハッシュタグ

#SPEAKUP\_Action

#チェンジメーカーアクション

#FTCJ

### 活動する時に守ってほしいこと

1. 多様性を認め合い、年齢、人種、宗教・信条、民族性、障害、性的指向、外見を基準に差別や相手を傷つけるような言動・暴力はせず、それぞれの個性を尊重する。もし意図せず相手を傷つけてしまったら、立場に関係なく気持ちを込めて謝罪をする。
2. 熱中症や感染症対策、交通機関のルール確認、避難経路の確認など、健康や安全に配慮する。  
メンバーの顔写真や名前などの個人情報を本人の許可なく無断でSNSに載せない。
3. 活動を通じて知り合ったおとなや子どもと、活動と無関係な理由で頻繁に電話やメールをしない。  
困ったらすぐに先生やおとなに相談する。  
※FTCJ相談窓口もあるので連絡してね。soudan@ftcj.org
4. 子どもとおとなは密室で2人きりにならない。  
やむを得ない場合は窓やドアを開けて話し合いをしよう。
5. お金の貸し借りはしない。  
活動にお金が必要な場合は、どのように集め・管理するかしっかりと話し合っ決めてよう。

※子どもの権利条約に従い、「子ども」とは18歳未満と定義しています。

18歳未満の子どもは、権利を持つ主体と位置付けられ、おとなと同様ひとりの人間として尊重し子どもの権利を保障するとともに、成長の過程で特別な保護や配慮が必要と考えています。



### ◆活動中の記録を取ろう

次の活動につなげるためにも活動中に感じたことや成果は記録をしよう。  
振り返り/ポートフォリオ用ワークシートもあらかじめ見ておこう！



#### ワンポイント

記録することをおさえておこう！

##### 成果の記録

- ・ アクションを実施した期間（日数）
- ・ 設定した数値目標に対する結果（協力者数や成果の数値）

##### 過程の記録

- ・ 成果を出すために、どのような行動を起ころしたか。（簡単だったこと、難しかったこと）
- ・ 一番楽しかったこと、印象に残ったことはどんなことか。
- ・ 地域の人たちは活動に参加してくれたか。
- ・ 次回行うとしたら、改善したいことはなにか。
- ・ このアクションでどんな影響を与えることが出来たと思うか。

##### 写真/映像 の記録

- 写真や動画を撮れる場合は、今後の活動や広報・報告に使えるよう、以下を記録しよう。
- ・ 活動中の様子（ミーティングや本番）
  - ・ 活動場所の様子、準備したもの、成果物
  - ・ 活動が掲載されたメディア（新聞記事など）

活動中に気づいたことを記録しておこう



## ステップ4 アクションを振り返り、報告・お祝いをしよう！

アクションの実施おめでとー！

アクションを起したら、次に繋げるためのこの重要なステップに取り掛かろう！

### ◆アクションを振り返ろう！ ワークシート

個人で・グループで、活動中に記録したメモを元に活動を振り返り、経験だけで終わらせず、“学び”にしよう。振り返りのワークシートを活用して、ポートフォリオとして保存し、今後活かしていこう。

### ◆アクションを報告しよう！

フリー・ザ・チルドレン・ジャパンに活動報告はしましたか？

みんなのアクションが集まれば、そのチカラはより大きくなる！忘れずに報告を送ろう！

**-報告フォーム-**

<https://ftcj.org/we-movement/westory>



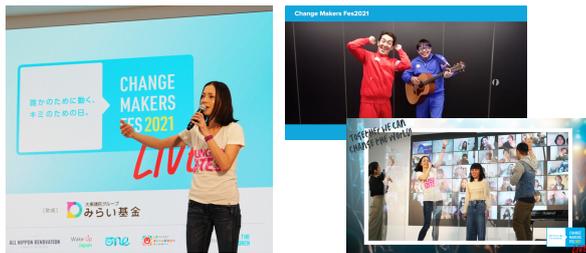
## フリー・ザ・チルドレン・ジャパンに活動報告すると何があるの？

### 1. 毎年3月に開催しているイベント

#### Change Makers Fesに無料招待（25才以下）

国内外の社会課題に対してアクションを起した子ども・若者を無料招待し、その活動を祝い、発展に繋げるライブイベントChange Makers Fes（チェンジメーカー・フェス）を3月に開催しています！子どもや若者世代が主役となって誰一人取り残されない持続可能な社会をつくるムーブメントに、あなたも参加しませんか？

<https://ftcj.org/changemakersfes>



### 2. 毎年春に発刊される

#### 「ソーシャルアクションレポート」への掲載

毎年、3月1日から翌年2月末までのアクションの報告をまとめたレポートを発行しています。

集まった報告から、寄付金額やボランティア時間の合計など、インパクトも発表しています。一緒に子ども若者のソーシャルアクションを日本で大きくしていきましょう！



### 3. 希望者には、活動証明書を発行（メールでデータでのお渡し）

活動証明書の発行が必要な場合は、活動報告フォーム内で申請を受け付けています。（報告には活動中の写真の提出必須。）

[活動証明書希望入力欄]

教職員の方がクラス分を一括で申請の場合：

発行を希望する全員の名前のみ必要です →まとめて発行

その他グループや個人で活動して申請の場合：

発行を希望するメンバー全員の

名前・生年月日・メールアドレスが必要です →個人へ発行

### ◆アクションをお祝いしよう！

アクションの成功をお祝い・そして周囲に共有して、頑張った自分を称えよう！

- ・活動をまとめたポスターを作成して、掲示する
- ・活動中の写真や動画記録を作って学校のウェブサイトでも発信する
- ・活動を報告スピーチを全校集会やホームルームで行う
- ・活動をお祝いする賞状（活動終了証）を送る
- ・アクションをお祝いするイベント（報告会）を開く
- ・Change Makers Fesに参加する！

### ◆アクションを続けていこう！

SDGsを達成するためには、一人一人が継続してアクションを続けることがとても重要です。この成功体験を活かして、これからも活動を続けていこう！

# アクションを振り返ろう！

振り返り&ポートフォリオ用シート

記入日： \_\_\_\_\_

名前： \_\_\_\_\_

## 取り組んだ社会問題

	-関係するSDGSゴール-
-なぜこの社会問題に取り組んだのか-	

## 実施したアクションの内容

	-なぜこのアクションなのか-
--	----------------

実施期間：

数値的成果：

◆お金の寄付：

 円

◆物の寄付：

 個

協力者：

◆ボランティア時間：

 時間

◆インパクトを与えた人数：

 人

支援先：

◆その他：

## 振り返り

-目標達成に向けて、あなたが/チームが工夫したこと、達成できたこと-

-困難だったこと、どう乗り越えたか、次回行うとしたら、改善すること-

-このアクションを通じて、学んだこと-



CHANGE  
MAKERS

アクションキット

# Congratulations!

SPEAK UP ACTION KIT 活動修了証

殿

あなたは、チェンジメーカー・アクションキット"SPEAK UP ACTION KIT"を活用し、  
社会問題を学び、解決のためのアクションを考え・実行しました。

ここに一連の活動を終了したことを記します。

引き続きソーシャルアクションを起していきましょう！

活動期間： \_\_\_\_\_

取り組んだ社会問題： \_\_\_\_\_

起したアクション： \_\_\_\_\_

一緒に活動したメンバーからの寄せ書き

Together  
we  
can  
change  
the world!



CHANGE  
MAKERS

アクションキット

# SPEAK UP ACTION

「変だな」と感じること + 声をあげる  
= 未来に変化を起こす

切り取り



この欄に自由に書き足して、仲間を集める時のチラシ/ポスターとして使おう

## 特定非営利活動法人フリー・ザ・チルドレン・ジャパン

FREE THE  
CHILDREN

フリー・ザ・チルドレン・ジャパンは、1995年に当時12歳のクレイグ・キールバーガー少年によって貧困や搾取から子どもを解放することを目的にカナダで設立された「Free The Children」の理念に共感し、1999年から日本で活動を始めた団体です。「子どもや若者は助けられるだけの存在ではなく、自身が変化を起こす担い手である」という理念のもと、国際協力活動と並行して日本の子どもや若者が国内外の問題に取り組む、変化を起こす活動家になるようサポートしています。現在では全国で1000人以上がメンバーとなって社会問題に取り組む変化を起こしています。

〒157-0062 東京都世田谷区南烏山6-6-5 3F | TEL 03-6321-8948 | Email info@ftcj.org | HP <http://ftcj.org>



FREE THE  
CHILDREN

認定NPO法人フリー・ザ・チルドレン・ジャパン  
〒157-0062 東京都世田谷区南烏山6-6-5 3F  
TEL 03-6321-8948 Email info@ftcj.org  
HP <http://ftcj.org>

アクションキット以外もお探しの方はこちら！

## FTCチェンジメーカー教育プログラム



<https://ftcj.org/we-movement/changemakerseducationprogram>



4つのステップのサービスラーニングで社会問題を学ぶ・実践する・振り返る！  
FTCチェンジメーカー教育プログラムは、子ども・若者一人ひとりが社会問題を自分ごととして捉え、問題解決に向けたアクションを起こせるようにフリー・ザ・チルドレンが開発したサービス・ラーニング（※）教育プログラムです。  
※サービス・ラーニングとは、社会科教育学専門の筑波大学唐木清志教授によると、「地域社会の課題解決を目指した社会的活動（サービス活動）に子どもを積極的に関与させ、子どもの市民性（シティズンシップ）を発達させることをねらいとした1つの教育方法」を意味します。

新学習指導要領に則り、SDGsの達成、フリー・ザ・チルドレン・ジャパンが目指す社会である「誰一人取り残さない」社会の実現を目指し、地域社会や国際社会の課題解決のための社会的活動を、4つのステップ+6つのアクションで実践することができるようデザインされています。

## 出前授業・講師派遣



<https://ftcj.org/we-movement/facilitator>



FTCチェンジメーカー教育プログラムの考えをベースに、出前授業を設計！

- ・「社会問題理解」+「アクションを考える」が基本の形。問題を知るだけでなく、自分とのつながりや地球規模で考え、個々人の特性を生かしたアクションへつなげます。
- ・「権利ベース」での社会問題の理解を深めます。“かわいそう”ではなく、同じ地球市民として国連が定めた「人権」「子どもの権利」から問題解決を探ります。
- ・SDGsの理解、オリパラ教育、世界全体の格差問題から、児童労働、貧困問題、医療の格差、環境破壊、差別、障害者理解など様々なワークショップ（参加型学習）の実施ができます。
- ・100種類近くあるプログラムから対象者・学習目的に合わせて授業内容を提案します。

## メンバー登録・メルマガ登録

無料のメンバー登録、月2回のメルマガ配信

<https://ftcj.org/we-movement/we-channel>



## -助成-



このアクションキットは、「大東建託グループみらい基金」のご支援によって作成することができました。  
誠にありがとうございます。



Together  
we  
can  
change  
the world!